

講義概要

SYLLABUS

2026年度

鍼灸科

2

年次

【 専門基礎分野 】

臨床医学各論Ⅱ

運動学

衛生学Ⅱ

リハビリテーション医学Ⅰ

病理学Ⅰ

臨床医学総論

臨床医学各論Ⅰ

【 専門分野 】

鍼灸理論Ⅰ

経絡経穴各論

はきの適応の判断

(病態生理学も含む)

東洋医学臨床論Ⅰ

東洋医学はりきゅう実技Ⅰ

現代医学はりきゅう実技Ⅰ

はりきゅう応用実技Ⅱ

(レディース鍼灸)〃

鍼灸理学検査法

鍼灸診察法

スポーツ鍼灸

臨床実習Ⅱ



学校法人エイジェック学園

スポーツ健康医療専門学校

[授業科目]

臨床医学各論Ⅱ

2 学年

[基本情報]

担当教員	大塩 くるみ		単位数	3	時間数	60
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

より多くの疾患とその症状について理解してもらう。国家試験に対応できるよう重要なポイントを明確化していく。常に他の教科とリンクさせ理解してもらうことにより、国家試験だけではなく臨床の場で役立つ知識をつけてもらう。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

東洋療法学校協会編 「生理学」 特になし

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、 血液疾患1(鉄欠乏性貧血)	16回	神経疾患7(筋疾患)	講義
2回	血液疾患2 (巨赤芽急性貧血、溶血性貧血)	17回	神経疾患8(運動ニューロン疾患)	講義
3回	血液疾患3 (再生不良性貧血、白血球疾患)	18回	神経疾患9(ギランバレー症候群)	講義
4回	血液疾患4(リンパ網内系疾患)	19回	神経疾患10 (圧迫・絞扼性ニューロパシー)	講義
5回	血液疾患5(出血性素因)	20回	神経疾患11(顔面神経麻痺)	講義
6回	神経疾患1(脳梗塞)	21回	神経疾患12(神経痛)	講義
7回	神経疾患2(脳出血、クモ膜下出血)	22回	神経疾患13(機能性疾患)	講義
8回	神経疾患3(感染性疾患)	23回	膠原病1(リウマチ性疾患)	講義
9回	神経疾患4(脳腫瘍)	24回	膠原病2(SLE・ベーチェット病)	講義
10回	神経疾患5(脊髄腫瘍)	25回	膠原病3(多発性筋炎)	講義
11回	神経疾患6(基底核変性疾患)	26回	膠原病4(多発性動脈炎)	講義
12回	神経疾患7(その他の変性疾患)	27回	膠原病5(アレルギー)	講義
13回	神経疾患8(認知症(痴呆)性疾患)	28回	膠原病6(血清病)	講義
14回	理解度確認(血液、神経疾患)	29回	理解度確認(膠原病)	講義
15回	前期単位認定試験 解答・解説	30回	後期単位認定試験 解答・解説	試験/講義

[授業科目]

運 動 学

2 学年

[基本情報]

担当教員	石井 彩	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

運動学の用語を習得し、骨格筋の構造と機能を学習することにより、身体のメカニズムと運動の様相を理解する。また、運動学的知識に基づいた身体の使い方を表現できるようにする。

[評価方法]

☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

「運動学(東洋療法学校協会編)」	特になし
------------------	------

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	運動路/感覚路(視覚器)	講義
2回	運動路/感覚路(視覚器)	講義
3回	運動路/感覚路(平衡聴覚器)	講義
4回	運動路/感覚路(平衡聴覚器)	講義
5回	運動路/感覚路(味覚器・嗅覚器)	講義
6回	運動学の基礎	講義
7回	姿勢とその異常 ・ 正常歩行と異常歩行	講義
8回	脊柱・体幹 の機能	講義
9回	肩甲帯・肩の機能	講義
10回	肘と前腕の機能	講義
11回	手と手指の機能	講義
12回	骨盤と股関節の機能	講義
13回	膝関節の機能	講義
14回	足の機能	講義
15回	単位試験/解答・解説	試験/講義

2026 年度

[分 野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

衛生学Ⅱ

2 学年

[基本情報]

担当教員	石井 彩	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では公衆衛生を基本として、衛生・公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☒その他(中間試験)

[教科書]

「衛生学・公衆衛生学 第2版 (東洋療法学校協会編)」 医歯薬出版 他

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1回	第4章 環境と健康 (物理、化学、生物的環境要因)	11回	第8章 成人・高齢者保健 (三大生活習慣病)
2回	第4章 環境と健康 (公害、環境問題)	12回	第8章 成人・高齢者保健 (その他の生活習慣病)
3回	第5章 産業保健 (意義、関連法規)	13回	第9章 感染症 (意義、用語)
4回	第5章 産業保健 (労災、業務上疾病)	14回	第9章 感染症 (真菌、原虫、リケッチア、クラミジア)
5回	第6章 精神保健 (意義、特徴、分類)	15回	第9章 感染症 (細菌、ウイルス、感染症法)
6回	第6章 精神保健 (分類、入院・通院・デイケア)	16回	第9章 感染症 (検疫法、予防接種法)
7回	第7章 母子保健 (意義、各母子保健指標)	17回	第10章 消毒法 (定義、物理的消毒法)
8回	第7章 母子保健 (母体保護、少子化、政策)	18回	第10章 消毒法 (化学的消毒法)
9回	第8章 成人・高齢者保健 (各指標)	19回	第10章 消毒法 (消毒の実際、医療廃棄物)
10回	単位認定試験 解答・解説	20回	単位認定試験 解答・解説

2026 年度

[分 野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅰ

2 学年

[基本情報]

担当教員	石井 彩	単位数	1	時間数	20
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

は
・知識：鍼灸師として必要活有益なリハビリテーションについて理解する。
・行動：臨床の場でリハビリテーションの知識を活用できる。

[評価方法]

単位認定試験において 60 点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

リハビリテーション医学 第4版	特になし
-----------------	------

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	リハビリテーション医学の理念と方法	講義
2回	リハビリテーションの概要	講義
3回	医学リハビリテーションの概要1	講義
4回	医学リハビリテーションの概要2	講義
5回	医学リハビリテーションの概要3	講義
6回	障害の評価1	講義
7回	障害の評価2	講義
8回	医学的リハビリテーション1	講義
9回	医学的リハビリテーション2	講義
10回	単位試験/解答・解説	試験/講義

[授業科目]

病 理 学 I**2 学年**

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

各臓器に生じる病変は「循環障害」「代謝障害・退行性病変」「進行性病変」「炎症」「腫瘍」「免疫異常」「先天性異常」に分類することができるため、これらを知ることは、病気の本質を知る助けとなる。それらの分類において、特にはり師きゅう師に関係する必要な知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験において 60 点以上を基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

教科書「病理学概論」、プリント資料

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	病理学概論について 免疫について	21回	慢性炎症の分類
2回	白血球と免疫反応分類	22回	腫瘍総論
3回	獲得免疫	23回	腫瘍の組織型
4回	急性炎症の概要	24回	良性腫瘍分類
5回	進行性病変(創傷治癒など)	25回	悪性腫瘍分類
6回	進行性病変(肥大など)	26回	腫瘍細胞の異型性
7回	退行性病変(萎縮など)	27回	悪性腫瘍の検査
8回	退行性病変(変性など)	28回	症候について
9回	循環障害(充血、うっ血)	29回	病因について
10回	循環障害(出血他)	30回	生活習慣病
11回	循環障害(血栓症他)	31回	免疫異常総論
12回	循環障害(塞栓症他)	32回	先天性免疫異常
13回	循環障害(梗塞他)	33回	後天性免疫異常
14回	循環障害(水腫、浮腫)	34回	アレルギー総論
15回	循環障害(ショック)	35回	アレルギー分類
16回	炎症総論	36回	I型アレルギーの仕組み
17回	急性炎症の形態	37回	II型アレルギーの仕組み
18回	急性炎症の分類	38回	III型アレルギーの仕組み
19回	単位試験/解答・解説	39回	IV型アレルギーの仕組み
20回	慢性炎症の形態	40回	単位試験/解答・解説

[授業科目]

臨床医学総論Ⅱ

2 学年

[基本情報]

担当教員	高野 弘仁	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

診断学、症候学は西洋医学の基本である。本講義では、西洋医学における患者の問診から診察・検査そして診断に至る過程とその意義について学ぶ。はり師きゅう師として必要な知識を軸に、臨床現場の実際についても講義する。よって、資格者として必要な基礎知識の取得とともに、多様な臨床医学の特性を理解することにある。各人が目指す医療従事者としての将来の方向性が提示されることを到達目標とする。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他(中間試験)

[教科書]

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

医学教育出版「病態生理でできた内科学」

[履修の条件・留意点]

- ・臨床医学各論と重複する事が多い為、内容により省略したり話が何度も重複します。
- ・専門用語を覚えてもらう為に書く事が多くなります。

授業計画 ;回数/講義内容/形式	
1	ガイダンス
2	基礎知識の整理
3	基礎知識の整理
4	基礎知識の整理
5	基礎知識の整理
6	基礎知識の整理
7	基礎知識の整理
8	基礎知識の整理
9	基礎知識の整理
10	基礎知識の整理
11	基礎知識の整理
12	基礎知識の整理
13	基礎知識の整理
14	基礎知識の整理
15	基礎知識の整理
16	基礎知識の整理
17	基礎知識の整理
18	基礎知識の整理
19	基礎知識の整理
20	基礎知識の整理
21	基礎知識の整理
22	基礎知識の整理
23	基礎知識の整理
24	基礎知識の整理
25	基礎知識の整理
26	基礎知識の整理
27	基礎知識の整理
28	基礎知識の整理
29	基礎知識の整理
30	基礎知識の整理
31	基礎知識の整理
32	基礎知識の整理
33	基礎知識の整理
34	基礎知識の整理
35	基礎知識の整理
36	基礎知識の整理
37	基礎知識の整理
38	基礎知識の整理
39	基礎知識の整理
40	基礎知識の整理
41	基礎知識の整理
42	基礎知識の整理
43	基礎知識の整理
44	基礎知識の整理
45	基礎知識の整理
46	基礎知識の整理
47	基礎知識の整理
48	基礎知識の整理
49	基礎知識の整理
50	基礎知識の整理
51	基礎知識の整理
52	基礎知識の整理
53	基礎知識の整理
54	基礎知識の整理
55	基礎知識の整理
56	基礎知識の整理
57	基礎知識の整理
58	基礎知識の整理
59	基礎知識の整理
60	基礎知識の整理
61	基礎知識の整理
62	基礎知識の整理
63	基礎知識の整理
64	基礎知識の整理
65	基礎知識の整理
66	基礎知識の整理
67	基礎知識の整理
68	基礎知識の整理
69	基礎知識の整理
70	基礎知識の整理
71	基礎知識の整理
72	基礎知識の整理
73	基礎知識の整理
74	基礎知識の整理
75	基礎知識の整理
76	基礎知識の整理
77	基礎知識の整理
78	基礎知識の整理
79	基礎知識の整理
80	基礎知識の整理
81	基礎知識の整理
82	基礎知識の整理
83	基礎知識の整理
84	基礎知識の整理
85	基礎知識の整理
86	基礎知識の整理
87	基礎知識の整理
88	基礎知識の整理
89	基礎知識の整理
90	基礎知識の整理
91	基礎知識の整理
92	基礎知識の整理
93	基礎知識の整理
94	基礎知識の整理
95	基礎知識の整理
96	基礎知識の整理
97	基礎知識の整理
98	基礎知識の整理
99	基礎知識の整理
100	基礎知識の整理

[illegible]

2026 年度

[分 野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

臨床医学各論Ⅰ

2 学年

[基本情報]

担当教員	高野 弘仁		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

内科系臨床鍼灸学では、鍼灸臨床にとって必要な主要症候のうち、内科系（便通異常、食欲不振、悪心・嘔吐、腹痛、胸痛・動悸、呼吸困難、肥満、血圧異常）の主要症候を取り上げ、それらの主要な原因疾患、症状の特徴、診察（鍼灸治療の適応か不適かの鑑別も含めて）および診察法、治療方針、鍼灸治療の方法について学習する。本講義では、内科系の主要症候について、適切な診察をすることができ、鍼灸治療の適否を判断した上で治療できることを到達目標とする。

[評価方法]

☒定期試験 ☐実技試験 ☐実習評価 ☐小テスト ☐レポート ☐その他（中間試験）

[教科書]

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

医学教育出版「病態生理でできた内科学」

[履修の条件・留意点]

・教科書に沿ってまとめたプリントを中心に授業を進めるので各自で必ずファイルを用意すること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	消化器疾患（消化器疾患総論）	講義
2回	消化器疾患（口腔・食道疾患）	講義
3回	消化器疾患（胃疾患）	講義
4回	消化器疾患（腸疾患）	講義
5回	消化器疾患（消化器疾患まとめ）	講義
6回	肝・胆・膵疾患（肝臓疾患）	講義
7回	肝・胆・膵疾患（胆嚢疾患）	講義
8回	肝・胆・膵疾患（膵臓疾患）	講義
9回	呼吸器疾患（感染性呼吸器疾患）	講義
10回	呼吸器疾患（閉塞性呼吸器疾患）	講義
11回	呼吸器疾患（拘束性呼吸器疾患）	講義
12回	呼吸器疾患（その他の呼吸器疾患）	講義
13回	腎・尿路疾患（原発性糸球体腎炎）	講義
14回	腎・尿路疾患（腎不全・感染症）	講義
15回	腎・尿路疾患（腫瘍性疾患・結石症）	講義
16回	腎・尿路疾患（前立腺疾患）	講義
17回	代謝栄養疾患（糖代謝異常・脂質代謝異常）	講義
18回	代謝栄養疾患（脂質代謝異常・尿酸代謝異常）	講義
19回	代謝栄養疾患（その他の代謝異常症）	講義
20回	前期単位試験/解答・解説	試験/講義
21回	内分泌疾患（下垂体疾患）	講義
22回	内分泌疾患（甲状腺疾患）	講義
23回	内分泌疾患（副腎疾患）	講義
24回	整形外科疾患（総論・関節疾患）	講義
25回	整形外科疾患（骨代謝性疾患・骨腫瘍）	講義
26回	整形外科疾患（筋・腱疾患）	講義
27回	整形外科疾患（形態異常）	講義
28回	整形外科疾患（脊椎疾患）	講義
29回	整形外科疾患（脊髄損傷）	講義
30回	整形外科疾患（外傷）	講義
31回	整形外科疾患（外傷）	講義
32回	整形外科疾患（その他の整形外科疾患）	講義
33回	循環器疾患（心臓疾患）	講義
34回	循環器疾患（心臓疾患）	講義
35回	循環器疾患（心臓疾患）	講義
36回	循環器疾患（冠動脈疾患）	講義
37回	循環器疾患（動脈疾患）	講義
38回	循環器疾患（動脈疾患）	講義
39回	循環器疾患（血圧異常）	講義
40回	後期単位試験/解答・解説	試験/講義

[授業科目]

鍼灸理論Ⅰ

2 学年

[基本情報]

担当教員	前川 秀郎		単位数	3	時間数	60
実務/資格	鍼灸院での豊富な臨床経験を持つ、はり師きゅう師の資格を有する講師が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

鍼灸治療に用いる用具や術式、鍼灸施術のリスク管理について学習する。また、鍼灸刺激に関わる生体の生理反応や調節機構などの基礎知識を理解し、鍼灸の治効機序を習得することを目標とする。

[評価方法]

☒ 定期試験 ☐ 実技試験 ☐ 実習評価 ☐ 小テスト ☐ レポート ☐ その他(中間試験)

[教科書]

[参考書]

プリント資料、教科書「はりきゅう理論」	特になし
---------------------	------

[履修の条件・留意点]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	鍼灸の概論、鍼の基礎知識	16 回	感覚(固有感覚、内臓感覚)、体表の反応	講義
2 回	刺鍼の方式と術式、特殊鍼法	17 回	熱傷(炎症)	講義
3 回	灸の基礎知識、灸術の種類	18 回	鍼鎮痛の特徴、ストレス誘発鎮痛、広汎性侵害抑制調節	講義
4 回	リスク管理①	19 回	下行性痛覚抑制系と内因性オピオイド	講義
5 回	リスク管理②	20 回	脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛、鍼鎮痛の個人差	講義
6 回	生体の調節(運動系の調節①)	21 回	循環器系と鍼灸	講義
7 回	生体の調節(運動系の調節②)	22 回	運動系と鍼	講義
8 回	生体の調節(内臓系の調節①)	23 回	消化器系と鍼	講義
9 回	生体の調節(内臓系の調節②)	24 回	泌尿器系と鍼、リラクセーションと鍼灸	講義
10 回	感覚(総論)	25 回	生体防御系と鍼灸、鍼灸治効機序と臨床の接点	講義
11 回	感覚(痛覚)①	26 回	鍼灸治効機序と臨床の接点②	講義
12 回	感覚(痛覚)②	27 回	エビデンスの成り立ち	講義
13 回	感覚(温度覚、触覚・圧覚・振動覚)	28 回	後半の復習(下行性痛覚抑制系)	講義
14 回	前半の復習(伝導路)	29 回	後半の復習(体性-内臓反射)	講義
15 回	前半まとめと解説	30 回	全体まとめと解説	試験/講義

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 基礎はり学 基礎きゅう学

[授業科目]

経絡経穴各論

2 学年

[基本情報]

担当教員	秋葉 裕子	単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	講 義	---

[授業目標]

主な経穴の穴性(性質)と、主な経穴に関わる筋・神経を学習し理解する。

[評価方法]

出欠席、小テスト、単位認定試験にて評価する。

小テストは計 2 回実施し、評価全体の 20%とする。

[教科書]

「東洋医学概論」、「経絡経穴概論」

[参考書]

授業のなかで、その都度紹介する。

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布するため、欠席時は次回授業時に担当講師から受領すること。

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	ガイダンス・穴性の位置づけ	11 回	東洋医学的穴性[臓腑弁証 (肺・大腸)]
2 回	治法とその活用法	12 回	西洋医学的穴性[手太陰肺経・手陽明大腸経]
3 回	東医学的穴性[気血津液弁証]	13 回	東洋医学的穴性[臓腑弁証 (腎・膀胱)]
4 回	東医学的穴性[気血津液弁証]	14 回	西洋医学的穴性[足少陰腎経・足太陽膀胱経]
5 回	東医学的穴性[臓腑弁証 (肝・胆)]	15 回	西洋医学的穴性[手厥陰心包経・手少陽三焦経]
6 回	西洋医学的穴性 [足厥陰肝経・足少陽胆経]	16 回	西洋医学的穴性 [任脈・督脈]
7 回	東洋医学的穴性[臓腑弁証 (心・小腸)]	17 回	東洋医学・西洋医学的穴性[総括①]
8 回	西洋医学的穴性 [手少陰心経・手太陽小腸経]	18 回	東洋医学・西洋医学的穴性[総括②]
9 回	東洋医学的穴性[臓腑弁証 (脾・胃)]	19 回	東洋医学・西洋医学的穴性[総括③]
10 回	西洋医学的穴性 [足太陰脾経・足陽明胃経]	20 回	単位認定試験 解答・解説

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

あはきの適応の判断

病態生理学
も含む

2 学年

[基本情報]

担当教員	小原 郁弥	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	講 義	---

[授業目標]

様々な疾患とその病態生理を理解し、患者に適切に説明出来るだけでなく、直ちに専門医に送るべき病態か、医療機関と併療すべき病態か、または鍼灸単独治療で行う病態か、はり・きゅうの適応を判断出来るようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験において 60 点以上を取ることを基本に授業の参加度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

臨床家のための基礎からわかる病態生理学; 毎授業ごとにプリントを配布する。

[参考書]

臨床医学総論、臨床医学各論、よくわかる痛み・鎮痛の基本としくみ

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布するため、欠席時は次回授業時に担当講師から受領すること。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	疼 痛	11回	食欲不振
2回	疼 痛・腰下肢痛	12回	高齢者
3回	腰下肢痛	13回	高齢者
4回	頭 痛	14回	小 児
5回	頭 痛・胸 痛	15回	小 児
6回	胸 痛	16回	婦人科疾患
7回	下 痢	17回	婦人科疾患
8回	便 秘	18回	癌と鍼灸
9回	浮 腫	19回	総復習
10回	浮 腫	20回	まとめと解説

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

東洋医学臨床論Ⅰ

2 学年

[基本情報]

担当教員	長谷川 聡		単位数	4	時間数	80
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員が指導する。					
開講学期	前 期	後 期	授業形態	講 義	---	

[授業目標]

東洋医学概論で学んだ知識を生かし、証候別・ストレスによってどのような状態があるのか理解すると同時に、どのように治療方針を立て、治療を行っていくかを学んでいく。3 年次の臨床実習にむけて、東洋医学的な診断と治療を行えるための基礎になるために、授業時間においては、症例トレーニングなども行うことにより、患者の病態生理と治療が出来るようにすることを目標とする。

[評価方法]

東洋医学臨床論

[教科書]

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

針灸学基礎篇・臨床篇、経穴篇、中医内科学、他は随時紹介していく。

[履修の条件・留意点]

・教科書に沿ってまとめたプリントを中心に授業を進めるので各自で必ずファイルを用意すること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	東医臨基礎	講義
2回	頭痛の病態生理と治療	講義
3回	顔面痛	講義
4回	顔面神経麻痺の病態生理と治療	講義
5回	歯 痛	講義
6回	眼精疲労	講義
7回	鼻閉・鼻汁	講義
8回	脱毛症	講義
9回	めまい	講義
10回	耳鳴の病態生理と治療	講義
11回	咳 嗽	講義
12回	喘 息	講義
13回	胸 痛	講義
14回	腹 痛	講義
15回	悪心・嘔吐	講義
16回	便秘と下痢	講義
17回	便秘と下痢	講義
18回	月経異常	講義
19回	月経異常	講義
20回	前期単位試験/解答・解説	試験/講義
21回	排尿障害	講義
22回	勃起障害	講義
23回	肩 upper 肢疾患	講義
24回	肩 upper 肢疾患	講義
25回	腰 lower 肢疾患	講義
26回	腰 lower 肢疾患	講義
27回	血圧（高血圧・低血圧）の病態生理と治療	講義
28回	食欲不振	講義
29回	肥 満	講義
30回	発 熱	講義
31回	のぼせと冷え	講義
32回	不 眠	講義
33回	疲労と倦怠	講義
34回	発 疹	講義
35回	小 児	講義
36回	スポーツ	講義
37回	スポーツ	講義
38回	老年医学	講義
39回	老年医学	講義
40回	後期単位試験/解答・解説	試験/講義

[授業科目]

東 洋 医 学

はり・きゅう実 技 I

2 学年

[基本情報]

担当教員	森 孝史	単位数	2	時間数	60
実務/資格	鍼灸院で豊富な臨床経験鍼を持つあん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	---	実 技

[授業目標]

一年次の基礎実技をベースに、さらに東洋的な考えに基づく鍼灸治療を、腹診・背候診を中心に理解・修得する。

[評価方法]

①実技テスト ②筆記テスト ③出欠席状況 ④授業態度・参加意欲等による総合評価とする。

[教科書]

はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)

[参考書]

『難経』(各出版社)、『東洋医学講座』第1巻、第10巻(緑書房)
、『カラーアトラス取穴法』(医歯薬出版)

[履修の条件・留意点]

毎回の授業ごとに内容・解説が変わります。
遅刻・欠席があると授業の理解、修得が困難になりがちです。準備・復習と体調管理に注意して、休まず出席すること。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス・オリエンテーション	実習
2回	東洋医学原論（東洋医学とは）	実習
3回	脈診（原穴のみ）、腹部接触診（1）	実習
4回	脈診（原穴のみ）、腹部接触診（2）	実習
5回	『難経』55難・52難	実習
6回	『難経』56難・16難	実習
7回	『難経』もしくは 腹診入門	実習
8回	腹部の取穴・五臓区分（1）	実習
9回	腹部の取穴・五臓区分（2）	実習
10回	腹診の方法（1）	実習
11回	腹診の方法（2）	実習
12回	背部俞穴の取穴・五行区分（1）	実習
13回	背部俞穴の取穴・五行区分（2）	実習
14回	背部俞穴の取穴・五行区分（3）	実習
15回	腹診と背部施術（1）	実習
16回	腹診と背部施術（2）	実習
17回	腹部・背部取穴確認ペーパーテスト、腹診と治療	実習
18回	腹診と治療	実習
19回	鍼実技まとめ	試験/実習
20回	灸実技まとめ	試験/実習
21回	実技まとめ講評	実習
22回	腹診と治療（1）	実習
23回	腹診と治療（2）	実習
24回	腹診と治療（3）	実習
25回	腹診と治療（カルテ記入）1	実習
26回	腹診と治療（カルテ記入）2	実習
27回	腹診と治療（補助治療）1	実習
28回	腹診と治療（補助治療）2	実習
29回	腹診と治療（補助治療）3	実習
30回	腹診と治療（補助治療）4	実習

2026 年度

[分 野] 専 門 / 実 習

[授業科目]

現代医学 はり・きゅう実技

2 学年

[基本情報]

担当教員	川西 咲子/前川 秀郎	単位数	2	時間数	90
実務/資格	他の鍼灸専門学校でも実技の授業を担当した経験があり、豊富な臨床経験を持つ、はり師きゅう師の資格を有する講師が指導する。				
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習

[授業目標]

現代医学の知識・技術を応用し、各症候に対する診察および治療を理解すると共に、東洋医学臨床論の現代医学的な考え方に基づく鍼灸治療およびその技術（低周波鍼通電療法を用いた治療技術など）を習得する。

[評価方法]

出席状況および実技試験により評価する。

[教科書]

新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編） 南江堂

鍼通電療法テクニック 医道の日本社 図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ 文光堂

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	上肢痛運動疾患概要①	実習
2 回	上肢痛運動疾患概要②	実習
3 回	下肢痛運動疾患概要①	実習
4 回	下肢痛運動疾患概要②	実習
5 回	運動疾患まとめ	実習
6 回	運動疾患ツリー	実習
7 回	低周波鍼通電療法の基礎知識	実習
8 回	頸肩腕痛①	実習
9 回	頸肩腕痛②	実習
10 回	腰 痛	実習
11 回	ここまでの復習	実習
12 回	頸肩腕痛③	実習
13 回	腰下肢痛①	実習

14回	腰下肢痛②	実習
15回	肩関節痛	実習
16回	上肢痛	実習
17回	膝 痛	実習
18回	下肢痛	実習
19回	眼精疲労	実習
20回	前半まとめと解説	実習
21回	月経異常	実習
22回	排尿障害・ED（勃起障害）	実習
23回	めまい・耳鳴り・難聴	実習
24回	のぼせ・冷え	実習
25回	脱毛症	実習
26回	便秘・下痢	実習
27回	睡眠障害	実習
28回	頭 痛	実習
29回	腹痛・悪心・嘔吐	実習
30回	胸 痛	実習
31回	顔面痛	実習
32回	顔面神経麻痺	実習
33回	咳嗽・喀痰・呼吸困難	実習
34回	歯 痛	実習
35回	鍼鎮痛（鍼麻酔）	実習
36回	後半まとめと解説	実習
37回	前腕伸筋群への鍼刺激	実習
38回	復習①（顔面部・頭部）	実習
39回	復習②（頸部・胸腹部・四肢）	実習
40回	復習③（頸肩部・上肢）	実習
41回	復習④（腰部・臀部）	実習
42回	復習⑤（下肢）	実習
43回	安全な鍼灸刺激の確認	実習
44回	実技試験とフィードバック①	実習
45回	実技試験とフィードバック②	試験/実習

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 実 習

[授業科目]

はりきゅう応 用 実 技 Ⅱ

ー レディース鍼灸 ー

2 学年

[基本情報]

担当教員	秋葉 裕子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	---	実 習

[授業目標]

穴性をもとに、それぞれの疾患に対して処方を考え、深度・角度等を考えながら、処方に合わせて刺入できる技術を学習する。また、灸についても同様に病態に合わせた様々な灸法を学習する。

[評価方法]

出欠席、実技試験にて評価する。

[教科書]

「東洋医学概論」、「経絡経穴概論」、「東洋医学臨床論」

[参考書]

授業中に紹介する。

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布するため、欠席の場合は次回授業時に担当講師から受領すること。

授業計画 ;回数/講義内容

1回	ガイダンス・中国鍼① [刺入方法]	11回	ライフサイクル鍼灸 [腰痛①]
2回	中国鍼② [得気・催気法]	12回	美容鍼[東洋医学的な美容鍼]
3回	中国鍼③ [補瀉手技]	13回	ライフサイクル鍼灸 [頭痛]
4回	ライフサイクル鍼灸 [胃痛]	14回	ライフサイクル鍼灸 [眼精疲労]
5回	ライフサイクル鍼灸 [便秘]	15回	ライフサイクル鍼灸 [咳嗽]
6回	ライフサイクル鍼灸 [月経痛]	16回	ライフサイクル鍼灸 [鼻閉鼻汁]
7回	ライフサイクル鍼灸 [月経異常]	17回	美容鍼[欧米方式の美容鍼]
8回	ライフサイクル鍼灸 [肥満 (耳鍼)]	18回	ライフサイクルにおける鍼灸[腰痛②]
9回	美容鍼 [現代医学的な美容鍼]	19回	ライフサイクルにおける鍼灸[更年期障害]
10回	ライフサイクル鍼灸 [不眠]	20回	単位認定試験 総評

2026 年度

[分 野] 専 門

/実 習

[授業科目]

鍼灸理学検査法

2 学年

[基本情報]

担当教員	岡野 亜希子	単位数	1	時間数	30
実務/資格	鍼灸院での豊富な臨床経験を持つ、はり師きゅう師の資格を有する講師が指導する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	---	実 習

[授業目標]

身体の各部位を解剖学的に把握し、鍼灸治療で行われる基本的な理学検査法の知識と技術を修得する。

[評価方法]

出席状況、試験によって総合的に評価する。

[教科書]

臨床医学総論、臨床医学各論 医歯薬出版 新版東洋医学臨床論(はりきゅう編) 南江堂

[履修の条件・留意点]

授業時にプリントを配布。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、血圧測定	実習
2回	上肢の解剖・疾患について	実習
3回	上肢の理学検査	実習
4回	頸肩部の疾患と徒手検査	実習
5回	肩関節部の疾患と徒手検査	実習
6回	肘関節・手関節の疾患と徒手検査	実習
7回	上肢の復習	実習
8回	下肢の解剖・疾患について	実習
9回	下肢の理学検査	実習
10回	腰部・股関節部の疾患と徒手検査	実習
11回	膝関節の疾患と徒手検査	実習
12回	下肢の復習	実習
13回	総復習	実習
14回	実技まとめと解説	実習
15回	単位試験/総評	試験/講義

担当教員	岡野 亜希子	単位数	1	時間数	30
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の資格を有する教員が指導する。				
開講学期	---	後 期	授業形態	---	実 習

医療面接における基本的な技法と診療録の書き方を学び、鍼灸臨床において役立つ技術と知識を修得することを目標とする。

実技試験において 60 点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

プリント資料	随時紹介
--------	------

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1 回	医療面接概要	実習
2 回	医療面接実習 1	実習
3 回	医療面接実習 2	実習
4 回	医療面接実習 3	実習
5 回	医療面接実習 4	実習
6 回	医療面接実習 5	実習
7 回	医療面接実習 6	実習
8 回	医療面接実習 7	実習
9 回	医療面接実習 8	実習
10 回	医療面接実習 9	実習
11 回	医療面接実習 10	実習
12 回	医療面接実習 11	実習
13 回	医療面接実習 12	実習
14 回	医療面接実習 13	実習
15 回	単位試験/総評	試験/講義

2026 年度

[分 野] 専 門

/実 習

[授業科目]

スポーツ鍼灸

2 学年

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗	単位数	1	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。				
開講学期	前 期	---	授業形態	---	実 習

[授業目標]

様々な鍼灸治療法のうち比較的短時間で体の変化があらわれ、その変化を施術者、患者とも確認することができ、他の治療法とも併用できる治療法を学び、鍼灸臨床において役立つ技術と知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

実技試験において 60 点以上を取ることを基本とし、授業の参加度も含めて評価し単位を認定する。

[教科書]

[参考書]

プリント資料

随時紹介

授業計画 ;回数/講義内容

1 回	治療法総論	11 回	兎径部診断による治療法
2 回	東洋医学による身体の評価	12 回	背部への治療法
3 回	東洋医学による診断方法	13 回	側腹部診断による治療法
4 回	現代医学による身体の評価	14 回	腹部診断による治療法
5 回	現代医学的による診断方法	15 回	肩部診断による治療法
6 回	上腹部診断による治療法	16 回	肩甲骨周囲筋の治療法
7 回	頸部診断による治療法	17 回	下腿の治療法
8 回	胸部診断による治療法	18 回	ケガ（瘢痕組織）の治療法
9 回	季肋部診断による治療法	19 回	頭部の治療法
10 回	後頸部診断による治療法	20 回	単位認定試験 解答・解説

2026 年度

[分 野] 専 門

/ 臨床実習

[授業科目]

臨床実習Ⅱ

2 学年

[基本情報]

実習調整者	松澤 孝司 宮森 美香		単位数	1	時間数	45
開講学期	前 期	後 期	授業形態	---	実 習	

[授業目標]

- ・形態の違う実際の治療院で実習を通じて、自身が考える治療院について考えることができる。
- ・授業で学習していることが、実際にどのように効率よく用いられているかを体感することで、今後の授業への取り組み方に結び付けることができる。

[評価方法]

実習への取り組み状況によって総合的に評価する。

[履修の条件・留意点]

- ・各施術所の臨床実習指導者の指示に従うこと。
- ・日程の詳細はその都度施術所と相談して決める。通常時間外となるので注意すること。
- ・各期間における施術所はできるだけ違う所とする。

授業計画 ;回数/講義内容/形式

1回	附属鍼灸院実習	4月-5月 (4.5時間)
2回	第1期 外部施術所/治療院 臨床実習	6月 (4.5時間)
3回		
4回		
5回	第2期 外部施術所/治療院 臨床実習	8月 (4.5時間)
6回		
7回		
8回	第3期 外部施術所/治療院 臨床実習	11-12月 (4.5時間)
9回		
10回		

7回	臨床実習 SP		
8回	臨床実習 SP		
9回	臨床実習 実践		
10回	臨床実習 実践		